

第3回 大井川水資源検討委員会 議事概要

1. 日時・場所

○委員会：平成27年7月5日（日）12：35～13：35

場所：榎島ロッヂ（静岡市葵区田代）

なお、委員会開催前に下記の通り現地調査を実施した。

・現地調査：平成27年7月4日（土）～5日（日）

調査箇所：大井川河口付近から二軒小屋付近までを視察

中部電力川口発電所、中部電力塩郷堰堤、河川流量計測地点、
発生土置き場候補地など

2. 出席者

<委員長>（敬称略） 今田徹

<委員>（敬称略・順不同）足立紀尚、木谷日出男、戸田祐嗣、西垣誠、真下英人

<オブザーバー> 静岡市環境局

<事務局> 東海旅客鉄道株式会社 中央新幹線推進本部

3. 内容

【挨拶】 ○事務局代表 中央新幹線推進本部長

○委員長

【報告】 ○第2回委員会の概要

○第2回委員会における主なご意見

○計測計画

○導水路トンネルに関する調査

【その他】 ○今後のスケジュール

4. 委員長挨拶

大井川河口から最上流部まで視察してきたが、地形が厳しい場所であることを再確認した。水資源への環境保全措置としては、前回の委員会で示された導水路トンネルを中心に検討を進めていき、河川流量への影響についてはモニタリングを実施する必要がある。現地視察をもとに、さらに計画の深度化をしていきたいと考えている。

5. 議事概要

○第2回委員会における主なご意見

・二軒小屋発電所の導水路トンネル工事において出水した地点で地盤の崩落等が発生していないか教えてほしい。

→（JR）出水した地点で地盤の崩落等は発生していない。

・二軒小屋発電所の導水路トンネルにおいて工事期間中のトンネル湧水量は記載されているが、恒常湧水量がわかれば教えてほしい。

・既設の導水路トンネルには水が常に流れているため、トンネル周辺の水位が高い状況である。そのため、導水路トンネル内に水を流さない状態にしても湧水量が落ち着くまでには時間がかかる。

○計測計画

- ・水位－流量曲線を作成する際は、流量の少ない時を重点的に計測してほしい。
- ・田代ダム付近は大井川と西俣川が合流した箇所の下流部になるので、河川流量の計測地点として重要である。また、富士川水系への取水を行う場所でもあるので河川流量が少ない場合に対策を行うポイントとなると思われる。そのため、田代ダムに関する過去のデータを集めてはどうか。
 - (JR) 田代ダムの取水量や流量データについて、電力会社から過去のデータを一部提供して頂いている。今後もデータを活用させて頂きたいと考えている。
- ・導水路トンネル出口でも流量は把握できるが、下流で長期間計測している地点があれば、導水路トンネルにより最終的にどれだけ大井川に水を返したか把握できるのではないかと。
 - (JR) 畑薙第一ダム貯水池の流入量のデータを活用させて頂くことを考えている。

○導水路トンネルに関する調査

- ・全体的に硬い岩ではあるが、坑口部については施工前に水平ボーリングを実施し、地質を確認することが望ましい。
 - (JR) 水平ボーリングの実施については検討する。
- ・導水路トンネルは、水を流すトンネルであるためルートには自由度がある。施工中に地質を確認し、より良好な地質の方向に線形を変更していくという手法がとれるのではないかと。

6. 委員長総括

- ・今後の施工を考えていく上で、二軒小屋発電所の導水路トンネルに関するデータはできるだけ集めるとよい。
- ・計測上及び対策上の観点から田代ダムの流量データ等をさらに集めるとよい。
- ・坑口部の施工にあたっては、水平ボーリングの実施も検討してはどうか。
- ・導水路トンネルを施工しながら地質を確認し、ルートを可能な範囲で柔軟に考えていくということも含めて、事前の地質調査の内容を考えてもよいのではないかと。
- ・水位－流量曲線について、特に流量が少ない時のデータをしっかりと採っておくことが望ましい。